

祝 辞

(子や孫の世代に継承できる国づくり・地域づくりに全力で取り組む)

全国町村会長 荒木泰臣

本日ここに、鳥取県町村会創立100周年記念式典が挙行されるにあたり、全国の町村長を代表し、ご挨拶を申し上げます。

本日の記念式典、誠におめでとうございます。この記念の日を迎えられましたのも、宮脇会長をはじめとする鳥取県町村会の皆さま、各町村関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心からお祝い申し上げます。

また、この後、表彰の栄に浴される皆様に対し、心からお祝い申し上げます。

さて、貴会は、大正9年に創設され、昭和・平成の時代を経て令和の今日まで、この100年間、住民に最も身近な地方自治の最前線で、幾多の困難を乗り越えてまいりました。

この間、町村運営の安定と地域の振興発展に尽くしてこられた、歴代町村長をはじめとする先輩各位のご功績と、本日もご列席の皆様のご尽力に深甚なる敬意を表する次第であります。

宮脇会長を先頭に、新たな100年につながる1年1年を見据えながら、積極果敢に地域を取り巻く様々な課題に立ち向かい、皆様の新たな挑戦が始まるものと存じます。

私たち町村は、いつの時代にあっても、地域に暮らす人々とともに、国土に広がる豊かな里、山、海を守り育み、伝統文化の継承はもとより、食料・エネルギーの供給、水源涵養、国土の保全、災害危機対応など、国民生活にとって欠くことのできない極めて重要な役割を担い続けてまいりました。平成の大合併により、鳥取県では、平成11年の35町村から現在の15町村となりましたが、これからも全国の町村は、我が国が持続的な発展を実現していくためになくてはならない存在です。

いま、私たちは新型コロナウイルス感染症による様々な困難な課題に直面しております。政府・自治体、国民・事業者一丸となって、何とんでもこの試練を乗り越えていかななくてはなりません。そして、コロナ後社会をしっかりと見据え、「東京一極集中是正」と「地方の活性化」を車の両輪にして、私たち町村がたとえ小さくとも多彩に光り輝く、「地方分散型の国づくり」、「都市と農山漁村が共生する社会の実現」を追求していかななくてはなりません。

鳥取県町村会の皆様をはじめ、全国926町村の皆様とともに、希望を持つ

て子や孫の世代に継承できる国づくり・地域づくりに全力で取り組んでまいります。

結びに、鳥取県町村会の益々のご発展と関係各位のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。